



平成24年6月11日

文部科学大臣
平野博文様

東日本大震災を経た今後の教育に関する要望書



「森は海の恋人」提唱者 畠山重篤氏

気 仙 沼 市
気仙沼市教育委員会

要 望 書

東日本大震災から早、1年3ヶ月が経過し、本市が海とともに誇りとする山々の緑も一層濃くなっております。

被災以降多くの課題を抱えながらも、本市においては国、県、並びに学校現場、そして何より児童・生徒の旺盛な学習意欲に支えられ、被災地の中では最も早く、平成23年4月21日には通学手段を確保し、給食の見通しを立て、学校を再開し、“震災の中でも充実した学校”を希求してまいりました。

そのような中での取組において、特に文部科学省による災害復旧事業や復興教育支援事業をはじめとする諸事業は、地域教育関係者に明るい展望を与え、児童・生徒及び市民にとり夢に溢れる未来を感じさせるものとなっております。

また、市が目指す、地域や我が国日本、広くは世界に持続発展をもたらす人的資質を育み、実際にそれを志をもって現実の社会の中で活かし、活躍する人材を育成する挑戦（持続発展教育：ESD）も、開始以来10年余を経て、各県・各地に広まり、充実の時を迎えつつあります。

ここに、本市の教育の充実とそれがもたらす、可能性溢れる澁刺とした児童・生徒の育成並びに地域等の発展のため、以下、万全の取組をお願い申し上げます。

○ 教育施設の災害復旧について

学校の耐震化や復旧、教育環境の確保は、児童・生徒の学びの充実に不可欠なものでありますが、特に平地の極端に少ない本市では校庭に仮設住宅の建設を余儀なくされております。児童・生徒の運動量確保の上からも仮設運動場設置等のための財政支援をお願い申し上げます。

また、図書館や公民館などは生涯学習に係る最も重要な施設であり、早急に復旧を行う必要がありますが、被災の影響が大きく建設地を含めて検討が必要な施設もあることから、次年度以降についても復旧のための財源確保をお願い申し上げます。

○ 復興教育支援事業の充実・継続について

復興教育支援事業では、本市は、県を通して行われている「学び支援コーディネーター等配置事業」、「協働教育プラットフォーム事業」や「311まるごとアーカイブス」に取り組んでおります。とりわけ、後者においては、本市がこれまで取り組んできた文部科学省防災教育支援推進プログラム「防災教育支援事業」を継承するものとして新たな発展と充実を図っておりますが、それは防災教育に止まらず、多くの教科での学習や三陸復興国立公園（仮称）と連携したジオパーク構想などへと広がるものであります。

これら復興教育支援事業の継続をお願い申し上げます。

○ 持続発展教育の充実・継続について

持続発展教育（ESD）は平成13年に面瀬小学校で国際環境教育としてスタートし、更に宮城教育大学との連携が進み、現在、気仙沼市内のほとんどの学校がユネスコスクールとして、地域・国内

外の関係機関・団体との連携・交流を中心とした実践を行っております。この実践は今回の大震災においても確かな役割を果たしていることから、今後は「ポスト2014年」を見据え、一層充実する方針であります。ESDのための全国的な取組の拠点をつくるとともに、教師・生徒の国際交流やESDの発表の場として、ユネスコスクール国際フォーラムの地域開催を継続するなど、事業の一層の充実・継続をお願い申し上げます。

○ OECD東北スクールについて

本事業は昨年度から開始されたものですが、参加した中学生や指導者の評価は極めて高く、その内容も充実したものであることから、他をもって代えることのできない優れた教育内容を持っていると評価しております。本市はOECD東北スクールへの参加人数を増加させるとともに、この企画へ貢献し、併せて当地域全体の生徒にも教育効果を広めることとしております。本スクールの次年度以降の本市での開催にご理解をお願い申し上げます。

○ 各大学のサテライト等について

本市及び本市教育委員会では宮城教育大学、宮城大学、東京海洋大学、明治大学と連携協定を締結し、サテライト等を活用した事業を実施しております。この事業は、教育、学術、産業等において、大学のない地方の市町村に新しい大きな可能性をもたらすものであり、この事業の充実と拠点整備等への特段のご支援をお願い申し上げます。

また、宮城教育大学を核とした全国教員養成系の大学ネットワーク及び学都仙台コンソーシアム、宮城教育大学教育復興支援センタ

一気仙沼事務所、全国 40 校の私立大学がエントリーしている東北学院大学災害ボランティアステーション、復興支援に熱心な早稲田大学や慶応大学等からなる気仙沼大学ネットワークは、多くの学生ボランティアや教員の派遣を通し、教育をはじめとする本市の復興に大きな役割を果たしております。これらの震災復興を支える各大学の取組が今後とも充実するよう多様な側面からのご支援をお願い申し上げます。

○ 科学技術教育の振興について

本市は、地域の自然、特に海の恵みを持続的に活用すると同時に科学技術の恩恵の下、発展してきております。事実、人口が増加した時代には、水産業に関して、科学的・技術的な飛躍要素の先駆的な導入がありました。このことから本市では宮城教育大学や東北大学の協力の下、小・中学校に拠点校をつくり、地域の創造的復興を担う人材の育成を目指し、科学技術教育に力を入れてまいります。

また、小・中学校、高等学校及び前述の大学サテライト等が連携し、防災教育を含め、科学技術教育を一層推進することとしております。

更に、生涯学習においても、科学技術にかかる文化の振興、創造を進めてまいりますので、施設設備面を含め、多岐にわたるご支援をお願い申し上げます。